



便もれは一人で悩まずにぜひご相談を — 便失禁治療の最前線 —



山名 哲郎（大腸肛門病センター部長）

日々の生活のなかで排泄に関するトラブルは家族にも相談しにくいとても悩ましい問題です。しかし便失

禁の症状で悩む人の多くは誰にも相談できずに我慢しているのではないのでしょうか？私たちの病院の大腸肛門病センターでは以前から便失禁などの排便障害の診療に専門的に取り組んでいます。今回、この「つつじ」の誌面をおかりして便失禁の治療についてご紹介したいと思います。

便失禁にはがまんしきれずにもれるタイプ（切迫性便失禁）と、知らないうちにもれるタイプ（漏出性便失禁）があります。がまんしきれずにもれるタイプは出産後におきやすく、出産時に産道に大きな力がかかることで肛門の筋肉（肛門括約筋）が切れたり、肛門の神経（陰部神経）が麻痺することが原因となります。知らないうちにもれるタイプは高齢者に多く、自然に肛門の筋肉が弱くなったり、肛門の感覚が鈍くなることが原因となります。また直腸がんの術後、脊髄のけがや病気、認知症でも便失禁の症状がみられることもあります。

便失禁で受診したかたの診察は、まず排便の症状についてお話をお聞きして、括約筋の力を調べる内圧検査や形を調べる超音波検査

をします。いずれの検査も体の負担のない簡単な検査です。また大腸の病気が疑われる場合は内視鏡検査なども行います。



便失禁にはいろいろな治療法があります。お薬で治す治療は『ポリカルボフィルカルシウム』という便の水分を吸収するお薬で、柔らかい便をちょうど良い硬さの便に整える治療です。知らないうちに便がもれる人の6~7割はこのお薬による治療だけで便もれ症状がなくなります。がまんしきれずに便がもれる場合は、『バイオフィードバック療法』という治療をします。これは肛門括約筋のセンサー器具を使って肛門を絞める力をきたえるリハビリ療法です。治療を続けると次第に自分で上手に力をいれることができるようになり、便を意識的にがまんできるようになります。出産で肛門の筋肉が断裂してしまっている場合は、筋肉を縫い合わせる『括約筋形成術』という手術を行います。

さらに最近では『仙骨神経刺激療法』という新しい治療法も導入されました。これは骨盤の中の神経を刺激する治療法で、2014年4月から保険適応になり、当院も全国でも数少ないこの治療ができる施設として認定されました。この治療法は心臓ペースメーカーのような器械をおしりの皮下に埋込み、肛門や直腸の働きを調整する神経を微弱な電流で刺激することで肛門の筋肉やセンサーの働きを高める画期的な治療法です（写真）。

便もれは自尊心がきずついたり、人に迷惑をかけるのではと心配したりして気分的にもとても落ち込んでしまう症状ですが、一人で悩まずぜひ大腸肛門科にご相談ください。

